

情報かわら版

4



今月の表紙：「葉月みのり」田植え（柏崎市）

今月のトピックス

- ▷ 新地方参事官 着任のご挨拶
- ▷ 「+みどりパートナーシップ」始動します！
- ▷ 第1回農作業安全表彰 ～ 農産局長賞に新潟県立村上桜ヶ丘高等学校 ～
- ▷ 未利用資源を活かそう！
～ ガンジー牛へのえだまめ規格外さやと茎葉残さの給与試験 ～
- ▷ 津南の雪下にんじん堀り競争2026に参加しました！
- ▷ 新潟県における「園芸作物導入」事例集（令和7年度版）
- ▷ 新潟県における「担い手確保に向けた取組事例」チラシ
- ▷ BUZZ MAFF ばずまふ ～ 新潟県農業大学校に潜入！～

電子版はこちら ▶





齊官 英雄
新潟県拠点 地方参事官

新潟県の皆さま、はじめまして。

令和8年4月より新潟県拠点地方参事官となりました、
齊官 英雄(さいかん ひでお)と申します。

出身は山形県鶴岡市で、入省以来、長く米関係業務に携わってまいりました。昨年のいわゆる「コメ騒動」は、予想し得ない事態となりましたが、その中で、的確な情報収集と丁寧な対応の重要性を改めて痛感いたしました。

令和8年度は一転して主食用米の在庫の増加が懸念される中、国内外の需要創出を図り、その需要に応じ、安定的な供給体制の構築に尽力してまいります。

今後、県民の皆さまと一緒に、新潟県農業のさらなる発展に向け取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「+みどりパートナーシップ」始動します！

北陸農政局では、地域の環境と食を守るための環を広げていくプロジェクト「+みどり計画」に賛同する農業者、企業・団体等とともに、この取組の環を一層広げていくことを目的として、令和8年3月に「+みどりパートナーシップ」を立ち上げました。

みんなでつなぐ - 北陸のたべるとつくるにみどりの未来を -

当たり前であった風景や食を失わないために、変えないために、ひとりひとりの小さな行動が求められています。

地域の環境と食を守り、未来につなげていくために、みどりの行動をとる人の環を広げていくために、「+みどりパートナーシップ」、始動します。



詳細は下記のURLまたは二次元バーコードからご確認ください。

https://www.maff.go.jp/hokuriku/kikaku/midori_syokuryou/plusmidori_partnership.html



令和8年4月に、新潟県拠点において「みどり戦略取組グループ」を新たに発足しました。今後、新潟県内の有機農産物生産者などを取材し、その先進的な取組や想いを「情報かわら版」で紹介していく予定です。

第1回農作業安全表彰



～ 農産局長賞に新潟県立村上桜ヶ丘高等学校 ～



農林水産省は、令和7年度より新たに、農作業安全に向けて積極的に啓発活動に取り組む農業者、農業関係団体を表彰する「農作業安全表彰」を創設しました。全国の都道府県から多数の推薦が寄せられた中、各地の優良な取組の中から、記念すべき第1回農産局長賞として、「新潟県立村上桜ヶ丘高等学校」が受賞し、令和8年2月26日（木）に農林水産省において表彰式が行われました。



杵鞭校長（写真左）と受賞された生徒の皆さん（令和8年3月25日取材）

農産局長賞 （最高賞）

農作業事故ゼロを目指し！

- ・ 令和4年4月、新潟県内で農作業事故が相次いで起き、近隣の関川村でもトラクターによる死亡事故が発生、私たちにとって非常に身近で大きな衝撃でした。「この事故は防げなかったのか」「GAP認証を取得した本校だからこそできることはないか」とこの農作業事故ゼロプロジェクトを立ち上げました。
- ・ 令和4年度は農業機械事故とシートベルト着用状況についてアンケート調査を実施し、令和5年度は農業機械のシートベルトに関する追加調査を実施しました。
- ・ 令和6年度は熱中症にターゲットを絞り研究を進め、令和7年度は熱中症パトロールを実施しました。
- ・ 研究成果を踏まえ、トラクターのシートベルト着用促進、また熱中症対策に関するポスターを作成し、注意喚起も図ってきました。



注意喚起のため作成したポスター



未利用資源を活かそう！

▶ガンジー牛へのえだまめ規格外さやと茎葉残さの給与試験◀

現在、畜産経営における飼料価格の高騰により、コスト低減が大きな課題になっています。一方、えだまめ栽培では大量に生じる規格外さやや茎葉残さの活用が課題でした。そこで、元々知り合いであった、えだまめ生産者と酪農家がお互いの課題解決のため長岡地域振興局と長岡市等の協力を得て令和6年から乳牛（ガンジー牛）への給与試験を開始しました。

未利用資源の活用と地元産飼料で生産される牛乳製品というブランド力向上にも寄与します。

ここでは、長岡地域振興局から聞き取った試験結果をご紹介します。

未利用資源って？

現状では活用されていないけど、適切な技術やアイデアによって新たな価値を生み出せる資源のことです。

	えだまめ茎葉 ①	えだまめ茎葉＋規格外さや ②	規格外さや ③	えだまめ茎葉＋規格外さや ④
添加剤	乳酸菌	米ぬか	ギ酸	—
保存形態	フレコン	フレコン	密閉容器	冷蔵
保存性	×	○	◎	×
嗜好性	—	○	○	◎

令和6年は、サイレージ調製をした左表①～③と未調整の④を給与し、保存性、栄養成分、嗜好性について調査しました。

①は、茎葉の土が混入、水分も高く乳酸発酵の確認が出来ず腐敗し飼料化できませんでした。②は、わずかなカビが発生しましたが、乳酸発酵は進み、健全な部分は給与できました。③は、乳酸発酵も進み、②に比べ

食いつきは良好でした。④は、食いつきも良く酪農家からは好評でした。

栄養成分は、腐敗した①以外で配合飼料に比べCP（粗タンパク質）、TDN（可消化養分総量）ともに良好な数値となりました。

結果として、①を除き飼料としての利用の可能性が確認できました。ただし、④は嗜好性は良いものの、保存性が悪く給与期間が限定されるなどのデメリットも確認されました。

サイレージ化による耕種農家の労力増、酪農家ではサイレージを崩し与える労力増などコスト面での課題も明確になりました。

令和7年は、前年の結果を踏まえ、サイレーシ調製の手間が掛からない、えだまめ規格外さやの給与実証を3頭について行いました。給与量は7月に1頭当たり1日0.6kgから始め、徐々に増量しつつ乳量、乳質等への影響を検証しました。

えだまめ規格外さやが確保できた10月まで給与を続けたところ、給与量1.8kgを与えても無給与の場合と乳量、乳質の差は見られない結果となりました。

しかし、運搬と給与に係る経費が上乗せになったためコスト削減とはなりませんでした。

今回は3頭での試験でしたが、今後えだまめ規格外さやの給与量、給与頭数の増によるスケールメリットを生かすことで経済効果が現れると考察されます。また、地域への普及には、コスト面から生のままでの給与が有効であること、えだまめ農家との連携を深めることが必要となります。



令和8年の展開

★えだまめ規格外さやの給与量を令和7年の1.8kgから3.6kgまで増量することを目標とし、乳量、乳質への影響を試験します。

★令和7年までは、無償でえだまめ規格外さやなどの提供を受けて

ていましたが、令和8年は、買い取る事を念頭に価格設定など検討します。

★スケールメリットを生かしたコスト削減を検討します。

より詳しいことを知りたい方は、長岡地域振興局農林振興部までお問い合わせください。



津南の雪下にんじん堀り競争2026に参加しました！

3月22日(日)、津南町の特産品「雪下にんじん」を雪の中から掘り出す「雪下にんじん堀り競争2026」が開催されました。

町内外から32チームが参加し、制限時間内に割れることなく掘り出されたにんじんの本数を競い合いました。

本競争には、北陸農政局の職員有志で結成した「みどりの食料システム戦略普及チーム」も参加しました。



▲ 雪の下で甘くなるにんじん

雪下にんじんとは、秋に収穫する予定のにんじんをあえて掘り上げず、雪の下で冬を越させたものです。
にんじんは雪の下で越冬させると、通常のにんじんに比べて甘みが増し、にんじん特有の臭いも感じにくくなります。

生で食べても
とても美味しい！



津南町のにんじん畑には、例年より少ないとはいえ、約1メートルの積雪がありました。春の雪は固く重くなっているため、スコップで雪を掘り出しながら作業するのは大変な重労働でしたが、20分間の競技時間(途中5分間の休憩を含む)の中で、最後まで粘り強く掘り続けました。



▲ 雪下にんじん、掘り出し中！

競争の結果ですが、参加32チーム中、19位(にんじん42本)という成績でした。参考までに、1位のチームはにんじん164本、最下位のチームは7本でした。

(参加者の感想)

雪を掘る作業は体力勝負でした。にんじんを傷つけずに掘り出すのはとても神経を使う作業で、結果として半分以上のにんじんを割ってしまいました。☹️



▲ 「みどりの食料システム戦略普及チーム」メンバー

新潟県における「園芸作物導入」事例集(令和7年度版)

新潟県拠点では、県内の生産者のご協力を得ながら、野菜(園芸作物)をはじめとする高収益作物を導入する複合経営の事例集を作成しています。

この度、新たに3つの事例を追加し、令和7年度版を作成しました。

(事例集は令和3年から7年度の取材事例、計23事例を紹介しています)

これから園芸作物を導入・拡大しようとする方にとって、大いに参考となるものだと思います。また、新潟県農業のさらなる発展の一助となれば幸いです。

～ 令和7年度 新たに追加した事例のご紹介 ～

赤塚 友美さん、長谷川 絵美さん
関川農事株式会社(関川村)



- ・豪雨災害でトマト栽培施設に被害
- ・父を助けるため一念発起して就農



清塚 晃穂さん、富喜さん夫妻
(魚沼市)



- ・「深雪なす」の認知度アップで高収入化を図る
- ・生分解性マルチで労力削減
- ・カフェなども併設したい



堀川 竜暉さん
堀川農園(三条市)



- ・えだまめは食味、香り、見栄えで1つの品種に絞り、現在は県外販売がメインで、売値も倍近くになった



新潟県における「園芸作物導入」事例集
北陸農政局新潟県拠点



農林水産省

事例集は、新潟県拠点ホームページに掲載していますので、ぜひご一読いただき、ご活用ください。

「参考になる身近な事例集」

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/jireisyu.html>



新潟県における「担い手確保に向けた地域の取組事例」チラシ

高齢化や人口減少が本格化する中、将来受け手がいない農地や集積・集約が進まないといった課題はありませんか。地域計画は、「未来の設計図」です。次世代に農地を引き継いでいくためにも、毎年、見直していきましょう。

新潟県拠点では、これらの課題解決につながる県内の取組を取材し、皆様に情報提供していきます。

新潟県拠点ホームページ
「1枚でわかるチラシ等」

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata/chirashi.html>



1. 農業委員の寄り添い取組(阿賀野市)

阿賀野市農業委員・農地利用最適化推進員は、地域計画作成に向け集落の話し合いに積極的に関わり、農業者の高齢化等で今後自分たちでは地域の農地を維持できないなどの地域の課題を把握しつつ他の地域から担い手の呼び込み・定着に向け、集落の意向に寄り添ったサポートを実施。

集落の将来を農業委員等と話し合い

集落の特徴
・農家戸数16戸
→R6年 離農2戸
・認定農業者 なし
・地域を担う者12名

10年後への不安

このままでは集落の農地を守れない!!
何とかしなければ
集落の農地が耕作放棄に!!



農業委員等からの提案
他の集落の担い手から選ばれる集落になるため集落ができる協力は何かを示してはどうか
集落が担い手を呼び込むために
・春の用排水の江波は集落で実施
・農業者の格納庫を農機具の保管場所として提供
・コミュニケーションを図るため集落のお祭り事に担い手を招待 など

経営面積の拡大を希望しているが、集落では他の法人と競合し面積拡大が難しい担い手にアプローチ



集落を担うことを任された担い手の変化

- ・ドローン導入・免許取得
- ・作付品種構成変更
- ・WCS、肥料用米等の導入
- ・園芸導入し、複合経営

▲ 農業委員の寄り添い取組事例(阿賀野市)

BUZZ MAFFばずまふ【1日密着】寮生活の農業大学校に潜入しました。

潜入！新潟県農業大学校

BUZZ MAFF(ばずまふ)は、農林水産省職員が、その人ならではのスキルや個性を生かして、我が国の農林水産物の良さや農山漁村の魅力を発信する動画チャンネルです。

令和8年2月に、新潟県農業大学校に農林水産省本省のBUZZ MAFFチームが潜入取材を行いました。

動画では、学生たちの和気あいあいとした雰囲気や、寮生活の様子などが紹介されています。

ぜひご覧ください。



動画は以下のURLまたは二次元バーコードからご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=N3FOBQvIvNo>



BUZZ MAFF チャンネルの登録＆動画に「いいね」をお願いします！



編集後記

今月の表紙写真は、柏崎市で行われた極早生品種「葉月みのり」の田植えの様子です。県内で最も早い田植えで、お盆明けにはスーパーの店頭に並ぶ予定とのこと。

今年も新米を味わえる日が、今から楽しみです。



お問い合わせ



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP
はこちら▼

